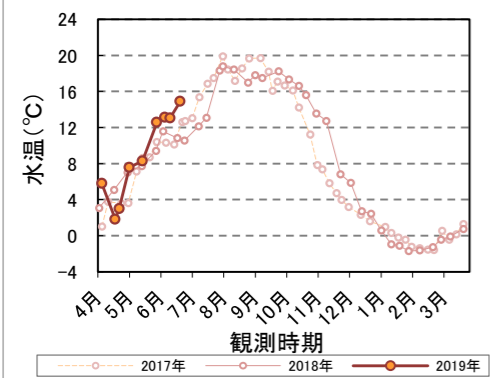


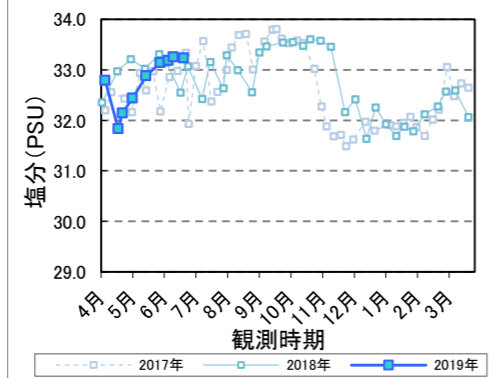
◎オホーツクタワーの動物プランクトン分析速報 (2019年6月)

海洋環境データ

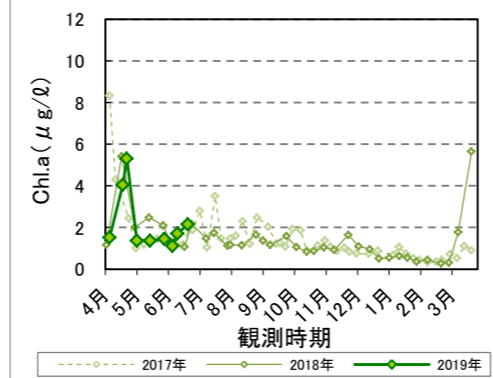
◎水温 (0~9mまでの平均値)



◎塩分 (0~9mまでの平均値)



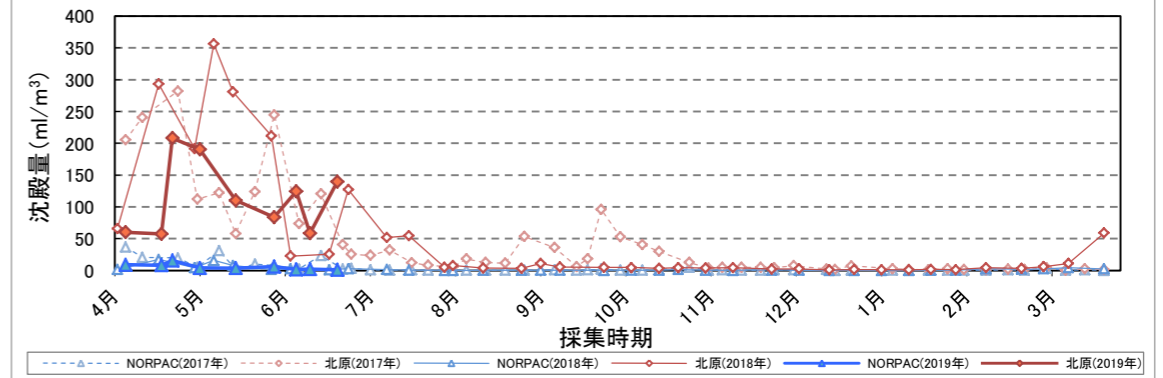
◎Chl. a (0~9mまでの平均値)



※観測：紋別市

動物プランクトンデータ

◎動物プランクトン・沈殿量



※分析：(株)エコニクス

概要

	6月6日	6月11日	6月21日
平均水温 (°C)	13.1	13.0	14.9
平均塩分 (PSU)	33.2	33.3	33.2
平均Chl.a (µg/L)	1.1	1.7	2.1
沈殿量 (ml/m³)	(NORPACネット) 1.6 (北原式定量ネット) 124.3	(NORPACネット) 2.0 (北原式定量ネット) 58.7	(NORPACネット) 1.3 (北原式定量ネット) 139.7
主な出現種	<p>(NORPACネット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○<i>Mesocalanus tenuicornis</i> [+] ○<i>Eucalanus bungii</i> [+] ◎<i>Pseudocalanus newmani</i> [++] ○<i>Eurytemora herdmanni</i> [+] ○<i>Acartia hudsonica</i> [+] <p>(北原式定量ネット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎<i>Pseudocalanus newmani</i> [+++] ○<i>Eurytemora herdmanni</i> [+] ○<i>Metricia pacifica</i> [+] ○<i>Acartia longiremis</i> [+] ◎<i>Copepoda</i> (nauplius) [+++] ◎<i>Pelecypoda</i> (larva) [++++] 	<p>(NORPACネット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○<i>Mesocalanus tenuicornis</i> [+] ○<i>Eucalanus bungii</i> [+] ◎<i>Pseudocalanus newmani</i> [+++] ○<i>Eurytemora herdmanni</i> [+] ○<i>Acartia hudsonica</i> [+] <p>(北原式定量ネット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○<i>Eucalanus bungii</i> [+] ◎<i>Pseudocalanus newmani</i> [+++] ○<i>Acartia hudsonica</i> [+] ○<i>Acartia longiremis</i> [+] ◎<i>Copepoda</i> (nauplius) [+++] ◎<i>Pelecypoda</i> (larva) [++++] 	<p>(NORPACネット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎<i>Pseudocalanus newmani</i> [++] ◎<i>Pinnixa</i> spp. (zoea) [+++] <p>(北原式定量ネット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○<i>Paracalanus parvus</i> s. l. [+] ◎<i>Pseudocalanus newmani</i> [++] ○<i>Acartia hudsonica</i> [+] ○<i>Acartia longiremis</i> [+] ◎<i>Oithona similis</i> [++] ◎<i>Pelecypoda</i> (larva) [++]
備考	(NORPACネット) — (北原式定量ネット) 珪藻かなり多い	(NORPACネット) — (北原式定量ネット) 珪藻かなり多い	(NORPACネット) — (北原式定量ネット) 珪藻かなり多い

※海洋環境データ欄の水温、塩分、Chl.aのグラフは、水深0~9mまでの平均値をプロットしたものである。平均水温、平均塩分、平均Chl.a欄の数値は、表示の都合上、水深0~9mまでの平均値を小数第2位で四捨五入した値で示し、グラフ上の表示と異なる場合がある。
 ※種名の先頭に“◎”がつく種類は、出現量の多い種類を示す。[]内の“+”は分析者の経験から、サンプル中の個体数の多さが後述の程度であると判断し、区分したグループである(+)出現、(++)やや多い、(+++)多い、(++++)かなり多い、(++++)極めて多い)。
 ※種名の後ろの記号は、分析者の経験から北海道における出現傾向に後述の特徴があると判断し、区分したグループである(◆冷水性種、◆暖水性種、■汽水性種)。
 ※今月のサンプルには珪藻類(植物プランクトンの仲間)が多く含まれており、沈殿量の数値はこれを含む。
 ※参考文献：

①千原・村野(1997)日本産海洋プランクトン検索図説[東海大学出版会]②山路(1966)日本海洋プランクトン図鑑[保育社]③若国市立微生物館 監修(2011)日本の海産プランクトン図鑑[共立出版]
 ④Wilson, M. S. (1966) North American Harpacticoid copepods, 8: The *Daniellsenia sibirica* group, with description of *D. stefanssoni* Willey from Alaska. *Pac. Sci.* 20 (4), 435-444.
 ⑤Pinchuk, A. I. & Hopcroft, R. R. (2006) Egg production and early development of *Thysanoessa inermis* and *Euphausia pacifica* (Crustacea: Euphausiacea) in the northern Gulf of Alaska. *J. Exp. Mar. Biol. Ecol.* 332, 206-215.
 ⑥林(2006)水産無脊椎動物学入門[恒里社]⑦Ohtsuka, S., H. Itoh & T. Mizushima (2005) A new species of the calanoid copepod genus *Centropages* (Crustacea) collected from Shimizu Port, middle Japan: Introduced or not? *Plankton Biol. Ecol.* 52 (2), 92-99.
 ⑧西・加藤(2002)日本産カムリコカイ科多毛類の分類について. *タクサ*, 13, 5-17.⑨今島(1996)環形動物 多毛類[生物研究社]⑩日本プランクトン学会 監修(2011)ずかん プランクトン[技術評論社]⑪水島・鳥澤 監修(2003)漁業生物図鑑 新 北のさかなたち[北海道新聞社]
 ⑫古賀(1960) *Centropages abdominalis* SATOのノープリウス幼生. *日本水産学会誌*, 26 (9), 877-881.⑬伊藤・水島・久保田(2005)駿河湾三保沖におけるカラヌス目カイアシ類の季節的消長. *東海大学紀要海洋学部*, 3 (1), 19-35.
 ⑭大越・野村(1990)穿孔性多毛類 *Polydora* 属による北海道地方、東北地方沿岸のホタテ貝浸食状況. *日本水産学会誌*, 56 (10), 1593-1598.

出現量の多かった種類

●*Pseudocalanus newmani* (カイアシ類の1種: ヲウバ・コガタ)
 体長: ♀0.9-1.5mm, ♂0.8-1.2mm. 冷水域に極めて普通に出現する。東北以北の沿岸では冬季層を占めるカイアシ類の1種となる。

●*Podon leuckarti* (カイアシ類の1種: オウバ)
 体長: ♀0.5-0.9mm, ♂0.5-0.8mm. 日本近海の沿岸、内海に極めて普通。世界各大陸の沿岸で知られている。

●*Oithona similis* (カイアシ類の1種: オウバ)
 体長: ♀0.7-1.0mm. 各海の沿岸、沿岸、外洋で普通に出現。日本各地の沿岸にみられる代表的な種類。各大陸に多く分布するが、比較的冷水を好み、外洋より沿岸に多い。

●*Balanomorpha* (nauplius) (ワケザメ類のノープリウス幼生)
 フジツボ類の発生途中の幼生。フジツボ類はほとんどが雌雄同体で、卵の孵化後にノープリウス幼生、キプリウス幼生の段階を経て固着生活に移る。

●*Copepoda* (nauplius) (カイアシ類の1種: ヲウバ)
 カイアシ類の発生途中の幼生。脱皮を繰り返してノープリウス幼生、コペポダイト幼生の段階を経て成体になる。海産魚類の仔魚層には、餌としてのカイアシ類のノープリウス幼生密度が決定的といわれている。

●*Pinnixa* spp. (zoea) (ワケザメ類の1種: ヲウバ)
 カニ類の仲間。マメガニ属の発生途中の幼生。カニ類は一般に卵生、コペポダイト幼生の段階を経て成体になる。メガロ/ハ幼生、稚ガニ、成体へと変化する。マメガニ属のソレア幼生は、プランクトンとしてよく知られるものの1つである。

●*Pelecypoda* (larva) (二枚貝類の幼生)
 二枚貝類の発生途中の幼生。二枚貝類は一般にトロコフォア、ベリジャーの2つの幼生期をもち、浮遊生活を送る。ベリジャー幼生期の初期はD字型をしているため、「D型幼生」とも呼ばれる。